



# 確かな学力の向上をめざして【12月】

## 不登校支援における効果的なアセスメントの実施

令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果が公表され、小・中学校では在籍児童生徒数が減少しているにもかかわらず、不登校児童生徒数は9年連続で増加し過去最多となっています。

中部地区においても、不登校児童生徒数は毎年増加し、今年度もさらに増加傾向となっています。不登校に至ったきっかけや継続理由についての確かな把握と分析を行い、効果的な支援に繋げていくことが求められています。

【昨年度（令和3年度）の欠席の状況】（表中の数字は人数、%は出現率）

小 学 校	長欠(30日以上)	うち不登校	中 学 校	長欠(30日以上)	うち不登校
中部地区	122 (2.30%)	88 (1.69%)	中部地区	198 (7.60%)	155 (5.91%)
鳥取県	621 (2.18%)	400 (1.40%)	鳥取県	916 (6.28%)	653 (4.48%)



県教育委員会では、生徒指導に係る諸課題の解決を図るために、今年度、国の「不登校に関する調査研究協力者会議」の座長である、立命館大学大学院 野田正人 特任教授をスーパーバイザーとして招聘し、さまざまな研修会でご講演をいただいています。

野田先生からは、児童生徒の示す行動の背景や要因を系統的に分析する「アセスメント」とそれに基づいた「プランニング」を学校として組織的にを行い、支援につなげていくことの重要性について示していただいています。

### 学校が組織的に 行う支援



スクリーニング ＜学校体制を組む＞	欠席や保健室来室回数等の項目を予め選定し、表面化しにくい課題を客観的に把握し、支援ニーズを適切に把握する。
アセスメント（見立て） ＜専門職との連携＞	担任や養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの様々な視点から要因や背景など、精度の高い情報分析を行う。
プランニング（手立て）	アセスメントに基づいて、適切な役割分担の下で、支援を実施し、効果検証と再アセスメントにつなげる。

支援実施後は、「できた、できなかった」ではなく、「効果があったかどうか」という視点で検証し、再アセスメントにつなげていくことが大切だよ！



### Point

◆児童生徒の課題を、以下の観点に注目した多面的なアセスメントが重要になります。

- ①生物学的要因  
発達特性、病気等
- ②心理学的要因  
認知、感情、信念、ストレス、パーソナリティ等
- ③社会的要因  
家庭や学校の環境や人間関係等

～生徒指導提要（案）より～